**8月号の主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| ３ | 大崎地域を世界農業遺産へ Vol.14市長コラム 天地人 |
| ４ | 笑顔ハジケル 大崎の夏祭り |
| ６ | 冷泉家時雨亭文庫 冷泉家和歌披講世界で輝け！大崎市ゆかりのアスリート |
| ７ | 第4期おおさき宝大使に52人を委嘱 |
| ８ | 十年物語　～おおさき人の軌跡～フランク永井歌コンクール実行委員長 畑中敏亮 さん株式会社 醸室 代表取締役社長 菊地大樹 さん |
| ９ | 大崎市が進める地方創生②宮城おおさき移住支援センター |
| １０ | 市政トピックス　7月の主な出来事 |
| １１ | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
| １２ | オオサキプレイガイド |
| １４ | 新しいビジネスを始めませんか　ほか |
| １６ | 今月のお知らせ |
| ２６ | 子育て支援情報 |
| ２７ | 育児相談・乳幼児健診 |
| ２８ | 休日当番医　ほか |

**今月の表紙**

6月27日から30日、鳴子温泉地域の潟沼で、鳴子中学校全生徒がSUP(サップ)を体験しました。SUPとは、スタンドアップパドルボード（Stand Up Paddleboard）の略称で、大きなサーフボードに立って乗り、パドルを漕いで進む、ハワイ発祥の新しいマリンスポーツです。はじめは膝立ちで、恐る恐る揺られていた生徒たちですが、慣れるとボードに立ち上がってスイスイと進み、緑豊かな潟沼の自然の中で、地元の魅力をあらためて感じているようでした。

　この取り組みは、アウトドア体験型プログラムを企画運営する「ナルコアーススポーツプロジェクト」が、鳴

子温泉郷の魅力発信と充実した過ごし方の提案として、7月から始めたもので、紅葉が美しい秋まで、ノルディックウォーキングとの組み合わせで、楽しめます。

ナルコアーススポーツプロジェクト

http://www.nes-p.com

**パタ崎さんのひとくちメモ　No2**

●みんなで、大崎市の魅力を発信していこう！

平成27年に、観光で大崎市を訪れてくれた皆さんは６９１万人で、県内ではなんと、仙台市に次いで第２位！でも、東日本大震災の前に比べると、１割ぐらい減少しているそうなんだ。

　宿泊客も、ここ10年間でもっとも多かった平成19年度の98万人と比べると、17万人ぐらい減っているんだって。うーん、これは何とかしなければ・・・。

　まずは、大崎市を知ってもらう「きっかけづくり」から始めるのがいいかもしれないね。

　観光客の皆さんは、ぼくたちが何気なく見ている風景や生活・文化に魅力を感じたり、地元の人たちとの出会いを楽しみにしている。だから、ぼくたちも地域の魅力をもう一度再確認して、訪れてくれた皆さんと積極的に交流しながら、大崎市の魅力を伝えていくことが大切になるんだ。

　皆さんも、ぼくと一緒に大崎市を発信していこう！

問合せ 観光交流課 電話23-7097

**大崎地域を世界農業遺産へ　No14**

里地・里山の保全と大崎耕土の恵み⑩

水田と屋敷林「」、水路が織りなすモザイク的土地利用

大崎耕土では、やませなどによる冷害が発生しやすく、地形の勾配が緩やかなため渇水や洪水が頻発する地帯ながら、巧みな水管理によって、生計を維持するための水田農業が営まれてきました。

　こうした人々の努力によって、水田、水田地帯に点在する屋敷林「居久根」や、張り巡らされた水路からなる、モザイク状の土地利用が広がっています。

　巧みな水管理を背景としたこのモザイク状の土地利用は、地域の豊かな生物多様性の保全にも貢献していて、水田の害虫を捕食する天敵として米づくりに有益な、カエルやトンボなどの生きものに、生息環境を提供しています。

　また、農家の暮らしと持続可能な水田農業を支える機能を有しながら、独特のランドスケープ(景観)を作り出しています。

　次世代につなげていきたい、大崎地域の大切な宝です。

【問い合せ先】産業政策課

世界農業遺産推進室 電話23-2281

sangyo@city.osaki.miyagi.jp

**市長コラム　天地人　　オリンピックを応援しよう！**

４年に１度のスポーツの祭典、リオデジャネイロオリンピックが、８月５日から17日間にわたり開催されます。

　史上初の南米開催であり、２０２０年東京五輪の盛り上がりを占う意味でも、大いに注目されます。

　日本選手が健闘し、表彰台に立つ姿は、東日本大震災や熊本地震の被災者に、勇気や希望、感動を与えていただけるものと期待しております。

　数ある種目の中でも、わたしは特に、女子バレーボールに感心があります。

　古川・大崎は「バレーボールの地」と言われるほど、バレーボールが盛んです。

　「古川・大崎を制する者は、県を制する」と言われるほど、非常にレベルが高く、少年・青年・ママさん・シニアともに、全国大会への出場や上位入賞を果たし、古川・大崎の名を全国に轟かせてきました。

　そして今回の五輪では、火の鳥ＮＩＰＰＯＮ・全日本女子バレーボールチームのメンバーに、古川学園高出身の佐藤あり紗選手と、田代佳奈美選手が選ばれました。

　古川学園高は、県内において11年間無敗の２２９連勝中で、全国大会出場１０７回、優勝12回、準優勝13回と、言わずと知れたバレーボールの名門です。実業団やＶリーグの選手をもっとも輩出してきた同校から、五輪代表選手の選出は、意外なことに初めての慶事であり、市内のバレーボール界にとっては、古川工業高出身の蘇武幸志選手以来、32年ぶりの快挙です。

　地球の裏側、遠いブラジルの地ではありますが、両選手の活躍と金メダル獲得を願い、市民を挙げて応援してまいりましょう！

大崎市長　伊藤　康志